



建築面積 : 368.762㎡(111.328坪) → 建築面積 : 372.915㎡(112.582坪)
 延床面積 : 435.745㎡(131.550坪) → 延床面積 : 439.463㎡(132.672坪)

和田のすずき家 ~古民家の新しいかたち~

建築地は静岡県西部に位置し、屋敷から少し南に旧東海道が東西に走り、それと並行するように北側には国道152号線が通っているが、いっほ道を入れば部分的に畑なども残る閑静な住宅街である。

すずき家は、表門・主屋・はなれ・土蔵・付属屋・内門及び塀・内庭などから構成される郷土屋敷構えを現在も残す住宅である。主屋とはなれは雁行する形をとり、明治37年建築のはなれは、奇棟屋根の2階建てで、1階2階共に10帖と6帖のオザシキに3帖の前室の平面構成を持ち、大正2年建築の主屋は、切妻屋根に重厚な野物の梁組みを持ち、ドマとオザシキ、ナンドの3つの平面構成を持ちます。14代ご当主により、6年前に東の土蔵を、2年前に西の土蔵の改修を終え、今回主屋・離れと納屋の改修を実施しました。

外観は出来るだけそのままに、保護のための壁漆喰塗りと木部古色塗装を行った。内部については古民家の寒いを解決するため、まずは古民家の代名詞でもある通風系の高い床下空間を閉じ、室内空間化し空気循環の効果を損なうことが無いように、室内側で断熱と気密を確保し、窓については外観の木製建具の雰囲気と崩すことの無いように内窓を設置した。空気循環する際に、床下エアコンを足すことで穏やかな床暖房効果をつくり出している。加えて土壁が薪ストーブの輻射熱を蓄熱する。そんな改修が古民家の寒いを克服しています。

古民家の屋根瓦下の土と、壁の土の遮熱と調湿の効果が夏期の暑さ対策に有効なことを活かして、そこに新たに断熱と気密、輻射熱の効果を加え、すずき家は「新しい古民家かたち」を実現しました。



